

## 平成 23 年度事業報告書

財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、子どもたちの心身の健全な育成と、食文化の発展に貢献する公益事業をおこないました。

その概要につきまして、以下のとおりご報告します。

### <公益目的事業>

1. 陸上競技支援事業
2. 自然体験活動支援事業
3. 食文化振興事業
4. 発明記念館運営事業
5. 青少年の健全育成を目的とする支援・協賛事業

### <収益事業等>

1. 施設賃貸および物販等の業務受託

### <公益目的事業>

#### 1. 陸上競技支援事業

「未来ある子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせたい」という日本陸上競技連盟の考えに賛同し、走る楽しさと仲間とふれあう喜びを広めることを目的に、全国の小学生を対象とする陸上競技大会を支援しています。

#### (1) 小学生陸上競技大会等の後援事業

##### ① “日清食品カップ” 第 27 回全国小学生陸上競技交流大会

全国 47 都道府県で開催された予選大会と、8 月 26 日、27 日に横浜・日産スタジアムで開催された決勝大会を後援しました。

昭和 60 年に「第 1 回全国少年少女リレー競走大会」としてスタートした本大会は、毎年 16 万人を超える選手、指導者、関係者が参加しています。過去の本大会出場者の中から、末續慎吾選手（第 8 回大会出場）、高平慎士選手（第 12 回大会出場）が、2008 年北京オリンピック男子 4×100m リレーで銅メダルを獲得するなど、国際舞台で活躍する選手が誕生しています。いまや子どもたちにとって目標となる大会として定着し、日本陸上競技界の底辺の拡大に貢献しています。

【主催・後援】 主催：日本陸上競技連盟、後援：文部科学省他

【実施日】 予選大会 平成 23 年 6 月 11 日(土)～7 月 24 日(日)  
決勝大会 平成 23 年 8 月 26 日(金)～8 月 27 日(土)

【場所】 予選大会 全国 47 都道府県予選大会の開催競技場  
決勝大会 横浜・日産スタジアム

【参加数】 165,000 人

【内容】 47 都道府県の予選大会において、選手に入賞メダルや参加賞を贈呈。  
決勝大会では、陸上競技の「走・跳・投」の 3 要素である 100m 走、80m

ハードル走、走幅跳、走高跳、ソフトボール投、4×100mリレーなどが実施され、その模様は NHK 教育テレビにて全国に録画放映されました。

【事業費】 114,266,077 円

② “日清食品カップ” 第 14 回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会

本大会は、発育途上の子もたちが、身体に負担をかけない正しい長距離走を理解し、走法、呼吸法やトレーニング方法などを学ぶことを目的に、平成 10 年度からスタートしました。全国 47 都道府県の代表チームに、開催地大阪から推薦された 3 チームを加えた計 50 チームが参加しました。

【主催・後援】 主催：日本陸上競技連盟、後援：文部科学省他

【実施日】 平成 24 年 3 月 17 日(土)～18 日(日)

【場所】 池田市立呉服小学校、万博記念公園内特設コース（吹田市）

【競技内容】 クロスカントリーリレー（1 区間 1.5 km 6 区間 男女交互のリレー）  
友好タイムトライアル、一般参加タイムトライアル

【参加数】 1,350 人

【内容】 ① 3 月 17 日、呉服小学校体育館にて開講式・研修会を開催。

講師：日本陸上競技連盟 普及育成委員

井筒 紫乃 氏、大畑 好美 氏

ゲスト：日清食品グループ陸上競技部

白水 昭興 監督、座間 紅祢 選手、高瀬 無量 選手

研修内容：・小学生アスリートの練習方法について

・小学生アスリートの食事と栄養について

・さまざまな運動をすることの大切さについて

② 3 月 18 日、万博記念公園内特設コースにおいて本大会を開催。

ゲスト：日清食品グループ陸上競技部

諏訪 利成 選手（アテネオリンピックマラソン代表）

佐藤 悠基 選手

（2011 年世界陸上 10,000m 日本代表、第 1 回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会出場選手）

【事業費】 18,588,464 円

③ 全国小学生陸上競技交流大会優秀選手研修会

将来の有望選手としての意識・意欲づけと、その指導者に発育発達に応じた一貫指導の重要性を理解してもらうため、第 27 回全国小学生陸上競技交流大会の優秀な成績の選手を対象に研修会を実施しました。

【実施日】 平成 23 年 10 月 29 日(土)～30 日(日)

【場所】 横浜・日産スタジアム、横浜市スポーツ医科学センター 他

【参加者数】 28 名

【事業費】 ① 第 27 回全国小学生陸上競技交流大会事業費に含む

(2) 少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」表彰事業

子どもたちの心身の健全な育成には優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えから、小学生の指導者を顕彰する少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」を、全国の各都道府県から選ばれた46名に贈呈しました。

【実施日】 平成23年8月27日(土)

【事業費】 ① 第27回全国小学生陸上競技交流大会事業費を含む

## 2. 自然体験活動支援事業

「自然体験とのふれあいが、子どもたちの創造力を豊かにする」という安藤百福の考えのもと、財団設立以来、青少年の心身の健全な育成を目的に、子どもたちの「自活力」を育む自然体験活動のさらなる普及と活性化に取り組んできました。

また、平成22年5月、長野県小諸市にわが国初の自然体験活動指導者養成専門施設「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター（略称：安藤百福センター）」を設立し、子どもたちを身近な自然に案内する指導者を育てる「上級指導者」の養成と、指導カリキュラムの研究・開発をおこなっています。

(1) 「第10回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」主催事業

子どもたちの創造性やチャレンジ精神を育む自然体験活動の企画案を公募し、ユニークで創造性に富んだ企画を立案した50団体に実施支援金各10万円を助成しました。

さらに、助成した団体から提出された活動報告書を審査し、学校部門は文部科学大臣奨励賞と優秀賞を、一般部門は安藤百福賞と優秀賞を選考し、表彰しました。

なお、今回支援した50団体の自然体験活動には、子どもたちと指導者をあわせて延べ約15,000人が参加しました。

【後援】 文部科学省、池田市、池田市教育委員会、横浜市、横浜市教育委員会、  
NPO 法人自然体験活動推進協議会

【表彰団体】

◆ 学校部門

文部科学大臣奨励賞（副賞：賞金100万円）

団体名 京都市立修学院中学校 ワンダーフォーゲル部（京都府）

企画名 「2011年度夏合宿 黒部のイワナを求めて」

優秀賞（副賞：賞金50万円）

団体名 敦賀市立西浦中学校（福井県）

企画名 「第19回いかだレース」

◆ 一般部門

安藤百福賞（副賞：賞金100万円）

団体名 農事組合法人新庄わいわい楽舎 米 STARS in 新庄実行委員（福井県）

企画名 「米 STARS（マイスターズ）in 新庄」

優秀賞（副賞：賞金50万円）

団体名 NPO 法人鶴見川流域ネットワークキング（神奈川県）

企画名 「バクの流域こども探検隊（愛称：ライジャケ隊）の都市の自然を

## 発見体験」

### ◆ 特別賞・奨励賞

#### 【推奨モデル特別賞】（副賞：賞金 20 万円）

本年度新たに、自然体験活動のプランニングや指導方法、計画を実施に移す過程が多く为学校や団体の参考モデルになると認められた企画に贈呈。

団体名 伊那市立伊那小学校 6 年文組（長野県）

企画名 「文組ドリームプロジェクト」

#### 【トム・ソーヤー奨励賞】

優秀賞に及ばないものの更なる発展が期待できる企画に贈呈。

① 団体名 七宗町立上麻生小学校（岐阜県）

企画名 「我ら日本最古の石の町！石の不思議探検隊!!」

② 団体名 NPO 法人すいた環境学習協会（大阪府）

企画名 「小学校の校庭の一角に～野生の生きものとふれあえる、自然豊かな里山づくり～」

③ 団体名 広島登山研究所（広島県）

企画名 「ジュニアアルパインクラブ（わんぱく登山部中学部）」

#### 【表彰式】

開催日：平成 24 年 1 月 28 日（土）安藤百福発明記念館 5 階ホール

来賓：有松 育子 氏（文部科学省 大臣官房 審議官）

山田 正人 氏（横浜市 副市長）

山田 巧 氏（横浜市 教育長）

講演会：栗城 史多 氏（登山家）

テーマ「夢を否定しない社会へ 子どもたちの夢の育て方」

【事業費】 16,130,542 円

### (2) ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウが満載のホームページ「自然体験.com」は、学校完全週 5 日制が施行された平成 14 年にスタートしました。当財団では、「自然体験.com」を通じて自然体験活動に関する情報を提供し、子どもたちの「創造力」や「自活力」を育む自然体験活動の輪を広げています。

また、「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の募集や、支援団体の活動状況を伝える速報レポート、活動報告書も掲載しています。

【アドレス】 <http://www.shizen-taiken.com>

【事業費】 8,352,312 円

### (3) 自然体験活動指導者養成事業

安藤百福センター（長野県小諸市）を拠点に、自然体験活動の指導者を育てる「上級指導者」の養成をはじめ、指導者養成制度を整備する中心的な役割を果たしています。

#### 【事業内容】

- ① 体系的な自然体験活動指導者養成制度の改革、整備  
・新たな自然体験活動の指導者制度の創設

- ② 自然体験活動の普及と底辺拡大を図る指導者養成事業
  - ・安藤百福センターでの上級指導者養成会、認定会の開催
  - ・自然体験活動に係る専門家のシンポジウム、フォーラムの開催
  - ・自然体験入門講座等の開催
- ③ 指導カリキュラム、自然体験活動の企画等の研究事業
  - ・紀要「人と自然」第1号発刊

#### 【平成23年度 主な事業】

- ① 上級指導者養成のための研修会後援  
上級指導者養成のための研修会を5回支援し、新たに73名の上級指導者誕生。
- ② 第1回浅間学生セミナー  
開催日：平成23年7月1日(金)～3日(日)  
参加者数：全国10大学から教員・学生あわせて29名  
内容：幅広い自然教育や環境教育の専門家を目指す学生たちの交流や、各大学の講義内容を情報交換することで相互に発展を図ることを目的に、教員による講義、学生による研究発表会、討論会、野外活動などを実施。  
また、米国ワイオミング州の自然学校「ティートンサイエンススクール」に、最優秀学生2名を派遣することを決定。
- ③ 第1回ロングトレイルフォーラム  
開催日：平成23年7月8日(金)  
参加者数：127人  
講演：・坪田 知広 氏（国土交通省 観光庁 スポーツ観光推進室長）  
・藤原 一成 氏（文部科学省 スポーツ・青少年局 青少年教育官）  
・岩佐 正行 氏（農林水産省 林野庁 国有林野部 経営企画課企画官）  
・加藤 則芳 氏（日本トレッキング協会 常務理事）  
内容：フォーラム開会に先立ち、日本のロングトレイルの普及促進を図ることを目的に、「日本ロングトレイル協議会」が発足。  
3省の施策についての講演に続き、全国8団体の運営報告を実施し、相互の情報を交換するとともに、横断的な普及と利用促進を図る。

【事業費】 107,584,817円

### 3. 食文化振興事業

「食創会」は平成8年、「食創為世（食を創り世のためにつくす）」という安藤百福の理念に基づき、食品の基礎科学の研究奨励ならびに独創的・革新的な食品の生産加工技術の開発に対する支援・普及活動を通じて、世界の食文化の向上・発展に寄与することを目的に創設されました。

当財団が主宰する食創会「安藤百福賞」は、新しい食品の創造開発に貢献する研究者、開発者ならびにベンチャー起業家に贈られるものです。大賞（副賞：賞金1,000万円）や優秀賞のほか、平成18年度より新設された発明発見奨励賞は、大学等の若手研究者や中小企業の開発者を表彰対象としています。

#### ◆食創会「第16回安藤百福賞」表彰事業

【後援】文部科学省

【受賞者】

◇優秀賞（副賞：賞金各200万円）

- ・富永 真琴 氏（自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター 教授）  
「辛味受容に関する分子メカニズムの研究」
- ・杉山 圭吉 氏（ライオン株式会社 常務取締役）  
「ラクトフェリンの内臓脂肪低減効果に注目した機能性食品『ナイスリム エッセンス ラクトフェリン』の開発」
- ・春見 隆文 氏（日本大学生物資源科学部 教授）  
「新規糖質素材エリスリトールの開発・利用に関する基礎研究」

◇発明発見奨励賞（副賞：賞金各100万円）

- ・福居 篤子 氏（株式会社龍角散 執行役員開発本部長 兼 国際部・企画開発部長）  
「嚥下補助ゼリー『おくすり飲めたね』の開発」
- ・魚谷 佳代 氏（株式会社味きっこう 代表取締役）  
「グリセロールを用いた連続加熱調理殺菌装置による長期保存食品の開発」
- ・出雲 充 氏（株式会社ユーグレナ 代表取締役）  
「ユーグレナを活用したベンチャーの起業とユーグレナの屋外商業大量培養技術の確立」

【表彰式・記念講演会】

開催日：平成24年3月9日(金)

場所：安藤百福発明記念館 5階ホール

来賓：河村 建夫 氏（衆議院議員）

針原 寿朗 氏（農林水産省 食料産業局長）

林 文子 氏（横浜市長）

記念講演会：テーマ 「美健賢食の奨め」

<基調講演> 吉川 敏一 氏（京都府立医科大学 学長、医学博士）

<記念講演> 優秀賞受賞者3氏

【事業費】 21,888,314円

#### 4. 発明記念館運営事業

「人間にとって一番大事なのは創造力であり、発明・発見こそが歴史を動かす」との安藤百福の考えに基づき、世界の食文化を変えたインスタントラーメンの誕生から、産業として世界に発展していった歴史をとおして、子どもたちに発明・発見の大切さを伝え、「ベンチャーマインド」や「創造的思考＝“クリエイティブシンキング”」を育み、青少年の心身の健全な育成に寄与しています。

(1) インスタントラーメン発明記念館（大阪府池田市、以下「池田記念館」）

池田記念館は、平成11年にインスタントラーメン発祥の地・大阪府池田市に開館し、平成16年11月には、展示内容と体験工房を充実させて約2倍の規模に拡張新築しました。

近年は、総合学習や修学旅行の場としての利用が多くなり、全国各地より来館する小中学生や高校生を対象に食育教室を開催するなど、体験型食育ミュージアムとして、高く評価されています。

<施設概要> 所在地： 大阪府池田市満寿美町 8 番 25 号

敷地面積： 3,888 m<sup>2</sup>

延床面積： 2,920 m<sup>2</sup>

<来館者数> 平成 23 年度来館者 588,000 人 (開館以来の来館者数: 3,900,000 人)

<体験者数> チキンラーメン手作り体験工房 44,000 人

マイカップヌードルファクトリー 339,000 食

## (2) 安藤百福発明記念館 (横浜市、以下「横浜記念館」)

平成 22 年、安藤百福生誕百年を記念して、国際都市・横浜市みなとみらいに横浜記念館の建設に着手し、平成 23 年 9 月、開館しました。

既存の考えにとらわれないうで、進化したアイデンティティを構築するために、佐藤可土和氏 (アートディレクター) に総合プロデュースを依頼しました。安藤百福の言葉や思考、行動の本質を現代アートの手法で表現し、世界に通じる新しい食文化や産業を生み出す原動力となった安藤百福の「創造的思考=“クリエイティブシンキング”」を分かりやすく伝え、子どもたちの自由な発想、創造力を育みます。

<施設概要> 所在地： 横浜市中区新港二丁目 3 番 4 号

開館： 平成 23 年 9 月 17 日 (土)

建設費用： 25 億円

敷地面積： 4,000 m<sup>2</sup>

延床面積： 9,882 m<sup>2</sup>

<来館者数> 平成 23 年度来館者 613,000 人 (9 月 17 日よりの来館者数)

<体験者数> チキンラーメンファクトリー 54,000 人

マイカップヌードルファクトリー 395,000 食

**【事業費】 399,339,531 円**

## 5. 青少年の健全育成を目的とする支援・協賛事業

「新たなスポーツ環境の創出に向けて」をテーマに開催された「生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2012—人・スポーツ・未来—」(主催：文部科学省他)に協賛しました。

**【開催日】** 平成 24 年 2 月 10 日(金) 秋田ビューホテル (秋田市)

**【協賛金額】 500,000 円**

<収益事業等>

### 1. 施設賃貸および物販等の業務受託

当財団が所有する発明記念館 (池田記念館、横浜記念館) のフロアの一部を賃貸しました。また、池田記念館においては、物販等の業務を受託しました。

**【事業費】 89,706,554 円**

以上